

弥生3月を迎え、皆さまには日々ご健勝のこととお喜び申し上げます。  
防災タイムズ第18号をお届けします。昨年12月からこの3月までの活動のあらましです。

### 1. 3丁目の自主防災訓練行われる

12月7日(土)、3丁目自主防災会による防災訓練が消防団の支援のもと東邦高校で行われました。昨年8月から始まった平成25年度、学区内11自治会の防災訓練はこれですべて予定通り終了しました。参加者数計248名(参加率131%<予定参加者比>)で、多くの自治会で創意工夫に満ちた実践的な訓練が行われました。企画立案された自主防災委員並びに参加者の皆様にはご苦労さまでした。訓練に勝る収穫はないと思います。また、ご指導頂きました学区消防団にお礼申し上げます。

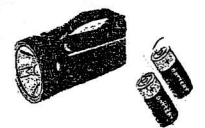
### 2. 自治会常備の防災用具について調査をしました

12月に各自治会所有の防災用具等について自主防災会の協力を得て調査を行いました。器具・用具の種類・数量等の詳細についての報告は割愛し、主なものについて紹介します。

基本備品としてヘルメット、腕章、メガホン、強力ライト、救急セット、懐中電灯(手動発電用含む)、消火器、三角バケツなど、その他軍手、スコップ、なた、パール、ノコギリ、ロープ、片手ハンマー、大ハンマー(2,5kg)、ペンチ、針金、毛布、ブルーシート等は各自治会ともほぼ常備されています。

また投光機、トランシーバー、発電機、縄(兼用)ハシゴ、ジャッキ(油圧式含む)、脚立、チェンソー、担架、アルカート(担架付き)、車椅子、チェア型担架などを常備してある自治会もありました。

何をどのくらい常備するかは各自治会の判断ですが、居住環境に応じた整備を今後も心がけていきたいと思います。また、自助の観点から家庭内の防災用具等の点検も必要かと思っています。



### 3. 学区の避難所について

学区の避難所は平和が丘小学校、猪子石中学校、東邦高校、コミセンの4か所です。コミセンは要援護者中心の避難所と位置付けています。東邦高校は正門等の開錠は東邦高校職員が行い、ペットの持ち込み禁止です。新たに柔道場(80人分)も避難スペースとして頂きましたので、その結果706名受け入れ可能となりました。一般住民は体育館に、教室は原則生徒用となります。

なお、政府の施策で各自治体に福祉避難所が設定されています。名東区では名東福祉会館(亀の井)、メイトワークス(勢子坊)、エムケア名東(高間町)の3か所で、一般の避難所では生活が困難な要援護者を対象とし、館内はバリアフリー化が図られ日常、未利用の方も災害時には利用できます。

### 4. 区主催の防災関係の集いへの参加(12月~2月)

- 12/8(日) 1/18(土) 2/16(日) 避難所運営リーダー講習会(名東区役所、前山小学校) 4名参加
- 12月25(水) 東邦高校避難所マニュアルの見直し検討会(東邦高校)区役所・東邦・防災委3者出席
- 1月21(火) 災害時帰宅困難者についての講演会(名東区役所) 5名参加

★防災活動経験の集約化を進めよう

避難所がいざ開設された時、運営に携わる係員が多数必要になります。今後、自治会長・自主防災会会長に就任した方には退任後、学連協の防災担当OB(仮称)として登録をお願いしたいと思います。

★平成 26 年度の名東区総合防災訓練 平和が丘小学校で実施予定

平成 26 年度の名東区総合防災訓練が「防災の日」の 8 月 31 日(日) 平和が丘小学校で平和が丘・蓬来両学区の担当で実施されることになりました。これに伴い学区総合防災訓練は中止になります。

★この度、幼児教育における防災教育について珉光幼稚園様(平和が丘 3 丁目)に寄稿をお願いしましたところ、快く引き受けて頂きました。厚く御礼申し上げてここに紹介させていただきます。

防災訓練を通して

珉光幼稚園

地域の皆様にはいつもお世話になりましてありがとうございます。

1974 年にここ平和が丘の地に移転して早 40 年。8 年前の 2006 年には園舎の耐震工事を行い、日頃から備蓄品を用意したり、ポリタンクに水を入れトイレに置いておくなど、万が一の時のために備えています。

防災訓練は年に 4 回しています。園には地震が来ることを数秒前に知らせしてくれる緊急地震速報が設置してあります。普段からこの装置を使って訓練しています。テスト配信でこの装置が鳴りカウントダウンすると子どもたちはすぐ机の下に入ります。そして厨房から出火したという想定で防災頭巾を被って、鼻と口にハンカチを当てながら、避難経路をたどって園庭へ避難します。子どもたちは真剣なまなざしで先生の後をついていきます。子どもたちが教室に残っていないか確認しながら教職員は避難し、園庭で人数確認をします。

初めて防災訓練をする子どもたち(3 歳児)の中にはびっくりして泣き出したり、「逃げない」と言って駄々をこねる子もいますが、これも訓練。教職員に抱っこされながら全員避難します。このような子どもたちも訓練を重ねるうちに装置が「ピッ」と鳴っただけで机の下に入ったり、「地震だ」と言って先生や友達に知らせたりするようになります。訓練後、教職員で反省点や課題、想定場面など、子どもたちが安全にかつ安心して避難できる方法について話し合い、次の訓練に生かせるようにしています。

先月には、教職員で練習用の消火器を使った消火訓練もしました。地震や火事などいろいろな災害から起こりうる状況を想定して、慌てず落ち着いて判断、行動できるよう日頃から意識を高めていくことが大切だと思っています。課題は尽きませんが、訓練を通して防災に対する意識や姿勢が子どもたちに伝わればと思います。

幼児段階ですでに防災訓練に取り組まれていることに敬意を表します。ありがとうございます。

<編集後記>2月のバレンタインデーの主役のチョコレートは農水省提唱の家庭用備蓄食料品の中に入っています。格上げされた梅干しも含めて全部で70品。品目の多さに改めて認識させられます(編集高木)。